

財団だより

〈第81号〉

一般財団法人 全国強制抑留者協会
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-8-2
九段第二勲業ビル2階
TEL 03-3261-6565 FAX 03-3261-6548



令和六年の新しい年を迎え

ますますのご健勝とご多幸を

心より祈念申し上げます



一般財団法人 全国強制抑留者協会
会長 山田 秀三



皆様にはご健勝に新しい年をお迎えのことと存じ、お慶び申し上げます。

(一財) 全国強制抑留者協会では令和五年度も戦後強制抑留者慰霊祭、シベリア抑留関係展示会やシベリア抑留の労苦を語り継ぐ集いを全国各地で開催し、多くの皆様にソ連モンゴル強制抑留の奴隷労働の実態やその不当性を訴えて参りました。一昨年辺りから顕著なことは、シベリア抑留関係展

示会ではウクライナ戦争等の世相を反映して、参加者の増加と家族連れや若い方たちの参加が多くなつたことです。また、

労苦を語り次ぐ集いでは各地で学生の皆様にお手伝い頂くことが増えてきました。

「ソ連モンゴル慰霊訪問(シベリア慰霊訪

問)」ではロシアへの慰霊訪問が今年も中止され、モンゴルとカザフスタンの二か国の訪問となりました。

近年、ロシアは日本に対して不当な「歴史戦」を挑んできております。戦後起きた「シベリア抑留の正当化」、「北方領土占領の正当化」等々です。引き続きウクライナへの侵攻による「シベリア強制抑留の悲劇」が再現されています。

更にロシアは九月三日を公式に「対日戦勝記念日」と決め不当に占領した北方領土の実効支配を改めて誇示しています。

これらに対して、(一財) 全国強制抑留者協会は引き続き、不当で悲惨なソ連モンゴル抑留(シベリア抑留)の史実を多くの皆様にお伝えし、語り継いで参る所存です。

末筆となりましたが、皆様並びにご家族のご多幸、ご安寧を心より祈念申し上げます。

新しい年(令和六年辰年)が

より佳き一年でありますよう

皆様のご健康とご多幸を

お祈り申し上げます



一般財団法人 全国強制抑留者協会

理事 同一
監事 同一
評議員 同一

令和五年度事業報告

令和五年度は、新型コロナウイルス感染症が五月八日から感染症法上の五類に変更となりましたが、コロナ禍の状況を見極めながら各事業を実施しました。事業の概要は以下の通りです。

I 慰霊事業

1 令和五年度シベリア抑留関係者中央慰霊祭を九月二十八日（木）、東京都千代田区「都市センターホテル」にて開催しました。今年も新型コロナウイルス感染症の状況から昨年同様、座席の間隔をとりながら実施しました。参加者は百二十名でした。

式典では、長谷川淳二総務大臣政務官にご臨席賜り、追悼の詞と献花を頂戴しました。

2 慰霊訪問（墓参）については、モンゴルとカザフスタンの二か国で実施しました。なお、ロシアのウクライナ侵攻により、ロシア地域への慰霊訪問は中止しました。

II 慰籍事業

シベリア抑留関係展示会については、抑留中の生活が分かるリアリティのあるものにするため創意工夫し、ラゲリ模型、黒パンのレプリカ等の

展示物を作成しました。

III 戦後強制抑留者に関する調査、相談、広報及びその他事業

1 戦後強制抑留者に関する調査については、旧ソ連資料の翻訳（ロシア語、ウズベク語、カザフ語）を行うとともにロシア国立軍事古文书館資料の翻訳（直訳）が完了したので、ホームページに順次開示していくこととしています。

2 遺骨帰還事業への協力については、カザフスタンの遺骨収集作業に一名を派遣しました。

IV 各支部の活動状況

各支部の活動については、新型コロナウイルス感染症防止対策に取り組みながら、支部役員や事業開催実行委員会の皆様のご尽力により、戦後強制抑留者地方慰霊祭、シベリア抑留関係展示会、シベリア抑留体験の労苦を語り継ぐ集いを無事に開催することができました。

① 戦後強制抑留者地方慰霊祭
十五支部

② シベリア抑留関係展示会
五会場

③ シベリア抑留の労苦を語り継ぐ集い
八会場

中央慰霊祭



慰霊訪問



各支部の活動状況

三重県支部「慰霊祭」



愛知県支部「展示会」



北海道支部「慰霊祭」



埼玉県支部「語り継ぐ集い」



令和五年度 活動状況報告

一．シベリア抑留関係地方展示会

- 埼玉県支部 七月一日～二日 埼玉県越谷市南越谷地区センター・公民館
- 愛知県支部 八月八日～十三日 愛知県春日井市文化フォーラム春日井
- 石川県支部 九月一日～三日 石川県金沢市文化ホール
- 新潟県支部 十月二十七日～二十九日 新潟県新潟市NEX T21市民プラザ
- 三重県支部 十一月十七日～十九日 三重県伊勢市いせトピア

二．シベリア抑留の労苦を語り継ぐ集い

- 北海道支部 五月二十日 北海道札幌市TKPガーデンシティ札幌駅前
- 埼玉県支部 七月一日 埼玉県越谷市南越谷地区センター・公民館
- 愛知県支部 八月十三日 愛知県春日井市文化フォーラム春日井
- 福岡県支部 八月二十九日 福岡県久留米市えーるピア久留米
- 石川県支部 九月二日 石川県金沢市文化ホール
- 愛媛県支部 九月二十四日 愛媛県松山市愛媛県生涯学習センター
- 新潟県支部 十月二十八日 新潟県新潟市NEX T21市民プラザ
- 三重県支部 十一月十九日 三重県伊勢市いせトピア

三．戦後強制抑留者慰霊祭（中央・地方）

- 中央慰霊祭 九月二十八日 東京都千代田区都市センターホテル
- 三重県支部 四月八日 三重県津市久居陸軍墓地慰霊碑前
- 長野県支部 四月十四日 長野県伊那市春日公園慰霊碑前
- 愛媛県支部 五月十三日 愛媛県松山市万葉植物園慰霊碑前
- 愛知県支部 五月二十一日 愛知県名古屋市中区栄会館
- 岐阜県支部 六月三日 岐阜県土岐市仲森公園慰霊碑前
- 熊本県支部 八月九日 熊本県合志市熊本県農業公園慰霊碑前
- 新潟県支部 八月九日 新潟県新潟市護国神社慰霊碑前
- 埼玉県支部 八月十六日 東京都千代田区千鳥ヶ淵戦没者墓苑
- 北海道支部 八月十九日 北海道札幌市真駒内滝野霊園慰霊碑前
- 岩手県支部 九月三日 岩手県盛岡市上田公民館
- 富山県支部 九月十一日 富山県高岡市手洗野慰霊碑前
- 石川県支部 十月七日 石川県金沢市石川護国神社境内慰霊碑前
- 福岡県支部 十月二十二日 福岡県福岡市福岡県護国神社内「参集殿」
- 静岡県支部 十一月八日 静岡県富士市中島小公園慰霊碑前
- 鳥取県支部 十二月十七日 鳥取県東伯郡湯梨浜町慰霊碑前

支部紹介

福岡県支部（令和二年六月再結成）

【組織】

支部長・伊藤康彦（ウクライナ抑留体験者）
会 員 令和五年十月現在 四十八名（役員六名）

【支部再結成の経緯】

福岡県支部は、平成十年代後半より役員の高齢化に伴い解散状態にあった。

このような中、現事務局長が平成二十七年シベリア慰霊訪問団に参加したことをきっかけに、全抑協本部から支部再結成の要請がなされた。このことを受け現事務局長は、平成二十八年に抑留体験者、抑留中死没者の遺児、慰霊訪問参加者等、五人からなる支部再結成のための準備委員会を立ち上げた。

その後、準備委員会を中心に、本部の支援を受けながら慰霊祭や語り継ぐ集いを実施した。このことが地元メディアにも取り上げられたこともあり、会員も当初の二十名から三十名程度となった。準備委員会結成から四年後の令和二年六月、支部設立総会を開催、承認され発足した。

【主な取り組み】

1 「労苦を語り継ぐ集い」とは別に、戦争体験者、戦没者遺族、中国帰国者（残留孤児）等を「語り部」として、それぞれの戦争体験や平和への思いを語り、次世代との交流を深めるため年一回、「戦争体験を語り継ぐ集い」を開催している。2 支部活動を次世代に繋ぐため会員の孫、ひ孫に支部活動への参加を積極的に呼びかけている。3 地元選出国会議員に対して、①強制抑留者の遺骨収集の取り組み②全抑協に対する

補助金確保等について要望を行っている。4 百歳を迎える抑留体験者に対して記念品を贈呈している。

【今後の取り組み】

1 抑留体験者が年々減少していることを受け、アメリカやスウェーデンの歴史博物館で導入されている、



AI（人口知能）を活用した等身大の抑留体験者（立体映像）が、目の前に現れて自らの体験談を語り、質問に対してもリアルタイムに答えられる「語り部」装置の導入を、公営歴史博物館等に導入するよう国や地元自治体に働きかけていく。

私のシベリア抑留

忘れてはいけない

福岡県 日佐小学校 五年 藤 和奏

「こんな悲しいことがあったんだ、」私は思わず口に出してしまいました。このような感情を抱いたのは、（二財）全国強制抑留者協会の出している、シベリア抑留での体験が書かれている児童書を祖父に勧められたからです。ひいおじいちゃんも、実際にシベリア抑留を体験したと聞いて興味を持ちました。本の中には、「人生いばん楽しかったはずの二十代がソ連軍に捕らえられた」と書かれていました。

昭和二十年、地獄のような光景を見た方、泥沼のよ

うな始まりだった方、町中に弾が残っていて戦争の恐ろしさを感じた方、みんな戦争の恐怖を知ったそうです。そこから家族に会えず、日だまりですら暖かみを感じないほどの中、ただひたすらに力仕事をするだけの生活。逃げ出したい、日本に帰りたいと思っても遠い故郷、楽しいことが一つもなかったように思います。やっと帰国できた時が、どれだけ嬉しかったことでしょうか。

本を読んで数日後、子供新聞にこんな見出しが付いていました。

「極寒の強制労働 六十万分人」ちょうどシベリア抑留のことが書かれていました。体験者のインタビューでは、「何年たっても忘れるわけがない。」と振り返っていました。仲間が亡くなっても、いずれ溶けてしまう雪でしか埋葬ができなかったそうです。

さらに、日本に帰っていない遺骨が、亡くなった方約五万三千人中、三万七千人分もあるそうです。きっと、日本に帰りがたがっていると思います。食べ物も、味も具材もほとんど無いスープとほんの少しのパンだけ。当時は、虫歯の治療に金歯を使っていたようで、自ら金歯を抜いて、ソ連兵にパンと交換までしていたそうです。厳しい労働では、マイナス二十度、三十度の寒い中でも、作業をしなければなりません。

記事を読んでいて、あまりの過酷さに胸を痛めました。きつい労働や仲間の死、家族と会えないつらさを感じました。想像するだけで悲しくなります。毎日が生死をさまよう日々、私は耐えきれないかもしれません。生きる希望すら失っているかもしれません。そんなことを考えさせられました。

改めて、戦争はやってはいけない、という事を学びました。大人になってからでもよいので、是非シベリア抑留の資料がある、京都の「舞鶴引揚記念館」に行ってみたいです。